

# 児童・生徒のポートフォリオ学習からティーチング・ ポートフォリオまで - システム開発・実践事例・普及 - System Development and Implementation of Teaching Portfolios for Children and Teachers

東原義訓  
Yoshinori Higashibara

谷塚光典  
Mitsunori Yatsuka

## 1. はじめに

本報告では、児童・生徒のためのポートフォリオ・システムであるスタディノートの機能、ポートフォリオ学習の事例、大学生徒と現職教員のためのティーチング・ポートフォリオ・システムの概要を紹介する。

## 2. スタディノート

### 2.1 児童・生徒のためのポートフォリオの誕生

筑波大学の中山らにより 1978 年に児童・生徒のための C A I として開発と実践を開始したスタディシリーズは、1991 年に余田らによりスタディノートと呼ばれる学校用グループウェアの機能が付加された。成田ら（1994）は、スタディノートを中学校の美術科のデザイン指導に活用して、制作過程の作品をサーバに保存でき、生徒が相互に見合うことができること、教師が制作過程を把握できることの効果を指摘した。このころはポートフォリオの用語が知られていなかったため、この用語は用いられなかったが、成田は実践を通してスタディノートのポートフォリオとしての有用性にいち早く気づいていた。スタディノートの設計者の余田は当初から、ポートフォリオを意識して、スタディノートのデータベース機能のアイコンをフォルダの形にしていた。小中学校におけるポートフォリオを意識してのスタディノートの活用は、1996 年から多くの学校で開始され、その成果は「生きる力を育てるデジタルポートフォリオ学習と評価」（余田 2001）として高陵社書店から出版された。これを契機に、スタディノートは全国の小中学校でポートフォリオとして、様々な教科、総合的な学習の時間などで活用されるようになった。特に、マルチメディアで表現できることから、国語の朗読、古典の群読、音楽の歌唱や演奏、体育の実技、英語のスピーチなど、ビデオを活用したポートフォリオが効果を上げている。

### 2.2 ポートフォリオとしての主な機能

スタディノートの有する機能の中で、ポートフォリオとしての機能は次の通りである。

#### (1) ノート機能

エビデンスとしてのマルチメディア作品の作成  
評価観点の作成  
振り返り、自己評価の記述  
ハイパーリンク

#### (2) データベース機能

エビデンスや自己評価の蓄積と共有  
マップによる構造的・評価的配置

#### (3) 親情報・子情報機能

コメント  
相互評価、教師による評価

## 3. ポートフォリオ学習の事例

### 3.1 身近な地域を紹介する英語スピーチ

スタディノートを活用して、次のように学習を進める。

- 1 英作文して覚える。
- 2 評価規準を確認する。
- 3 ペアでスピーチをビデオ撮影する。
- 4 ビデオを英文の画面に貼り付ける。
- 5 再生して、自己評価を記述する。
- 6 作品をデータベースに登録する。
- 7 友の作品を見て相互評価をする。
- 8 振り返りをする。

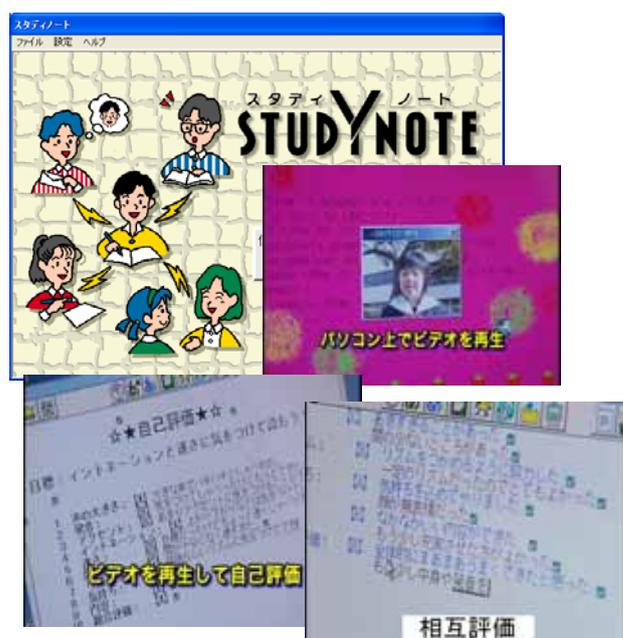


図1 愛知県東浦町立北部中学校橋本直子教諭の実践  
(NIME「ここまできた学校のICT活用」より)

## 4. ティーチング・ポートフォリオ

信州大学教育学部では、スタディノートで経験したポートフォリオの効果を背景に、教員志望の学生、現職教員のためのポートフォリオの活用を意図し、2001 年からティーチング・ポートフォリオ・システムの開発と活用を開始した。

### 4.1 教職志望学生用ポートフォリオ

信州大学教育学部では、平成10年度から、3 年次教育実習で作成した学習指導案のうち 1 授業分（研究授業等）を HTML 形式で Web ページ化して指導案の共有をはかってきた。また、平成13年度からは、INTASC ( Interstate

New Teacher Assessment and Support Consortium) の10観点に従って教育実習リフレクションシートを作成し (Excel形式で作成し, PDF化), 学習指導案 (HTML形式の概要部とPDF形式の本体部) と合わせてWeb上で共有することで, 教育実習Webポートフォリオによるリフレクションの促進を進めてきた。つまり, 教育実習の成果のエビデンスとして学習指導案を示しながら, スタンドに基づくリフレクションを行ってきた。

INTASC の 10 観点とは次の通りである。

1. Content Knowledge
2. Learner Development.
3. Diversity of Learners
4. Instructional Strategies
5. Learning Environment
6. Communication
7. Planning for Integrated Instruction
8. Assessment
9. Self-Reflection/Professional Development
10. Community

教育実習生は, 教育実習事後指導の課題の1つとして, 教育実習 Web ポートフォリオを作成・提出する。Web 上で共有することによって, 同じ学級や教科の教育実習生同士で閲覧し合い, 相互評価コメントを書き込む。

さらに, 平成 17 年度からは, 教員養成 GP や科学研究費補助金の支援を受けて, ティーチング・ポートフォリオ・システムの本格的な開発に着手した。

その実践として, 教育学部 1 年次生が開発したシステムを利用しながら, ティーチング・ポートフォリオを作成している。信州大学教育学部では, 3・4 年次の教育実習に先立って, 1 年次に「教育臨床基礎」(全課程必修科目) を履修する。この科目では, 附属松本学校園や長野県内外の青少年教育施設等での教育活動に参加する。教職志望学生は, 自己の教育臨床経験について, 1 年間で何を学んだのかをリフレクションし, 2 年次生以降での課題を明確化して, ポートフォリオを作成する。そして, 同じ専攻の学生同士で相互評価し合う。このように, スタンドに基づいてポートフォリオを作成することを通して, 教職志望学生のリフレクションを促進することができることに加えて, 学生の仲間同士でティーチング・ポートフォリオを相互閲覧することによって同僚性を高めていくことができる。

図2は, 臨床経験ポートフォリオの作成画面である。

#### 4.2 現職教員研修用ポートフォリオ

長野市教員 10 年経験者研修においても, 前述と同じシステムを用いて, 教科指導研修を進めている。研修者は, 1 分間程度の動画を添付ファイルとしてアップロードする。授業のポイントとなる場面を動画で示すことによって, その授業者の資質能力を示すエビデンスとなる。

#### 5. おわりに

教員免許法改正や中教審答申をうけて, 教員の資質能力の向上を示す方法としてのポートフォリオが注目されている。より使いやすいシステム開発が求められるであろう。

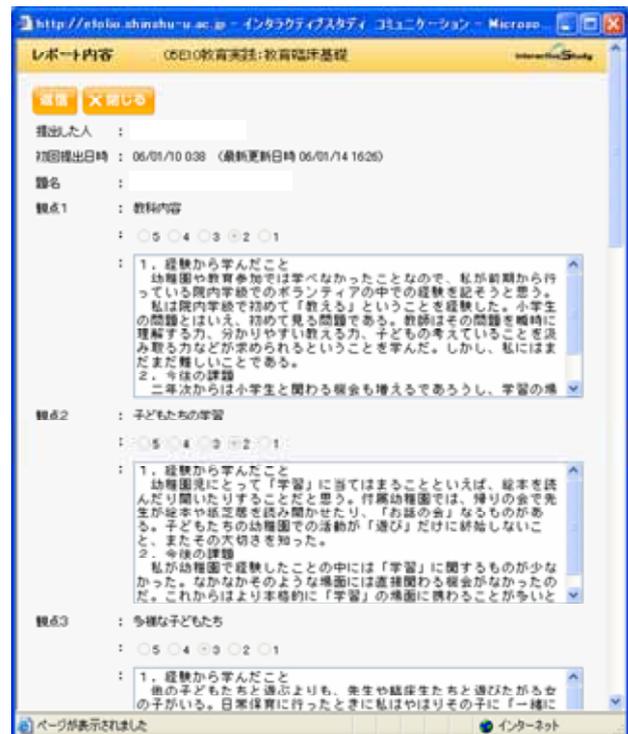


図2 臨床経験ポートフォリオの作成画面

#### 付記

本研究の一部は, 次の研究助成を受けて行われた。

- ・平成 17・18 年度大学・大学院における教員養成推進プログラム (教員養成 GP) 『臨床の知』の実現 - 蓄積する体験と深化する省察による実践的指導力の育成
- ・日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究(B) 『ビデオ記録と相互評価を核としたデジタルティーチングポートフォリオシステムの開発』 (課題番号 18300286)
- ・文部科学省科学研究費補助金若手研究(B) 『スタンダードとエビデンスに基づくティーチング・ポートフォリオ・システムの開発』 (課題番号 19700631)

#### 文献

- 成田顕宏 (1994) 学校用グループウェア「スタディノート」を用いた中学校美術科におけるデザイン学習指導の研究, 科教研報 8-4, 27-30
- 余田義彦 (2001) デジタルポートフォリオ学習と評価, 高陵社書店
- 永田智子 (2006) ティーチング・ポートフォリオで授業力を磨く. 人間教育研究協議会編『教育フォーラム 37: 授業力を磨く』金子書房, 東京, 95-104
- 東原義訓・谷塚光典・村瀬公胤 (2006) ティーチングポートフォリオシステムの詳細設計. 日本教育工学会講演論文集, 22
- 増本健監修, 木村捨雄・東原義訓編著 (2004) 確かな学力を育てる IT の先進的な教育利用. 東洋館出版社, 東京
- 谷塚光典・東原義訓 (2005) オンライン・ティーチング・ポートフォリオ・システムの基本設計. 日本教育工学会講演論文集, 21